整理番号 6

参考となる成果整理表

福島県沖におけるメロウドの分布状況調査

福島県水産資源研究所　資源増殖部

1　部門名

水産業―資源管理―イカナゴ

2　担当者名

白土遼輝・守岡良晃

3　要旨

漁獲制限解除に伴い、2013 年からコウナゴ（イカナゴ稚魚）漁が再開され、2018 年は好漁であったが 2019、2020 年は漁場形成がなく漁獲を自粛した。分布域や年齢組成を把握するため、メロウド（イカナゴ親魚）調査を実施した結果、採捕は 2 尾（3 歳魚）のみであったが、漁業による混獲が確認された。また、メロウドは高水温期に潜砂して夏眠する習性がある。底質を調査した結果、夏眠場として良好と考えられた。漁場周辺の底層水温は 2018 年の春季に平年より極めて高く推移し、メロウドの生存、成熟に悪影響を与えたことが示唆された。

（1）2020 年 4～11 月にかけて、メロウド採捕実績のある海域（N37°35’～52’、E141°08’～20’）にて、のべ 11 回オッタートロール、貝桁網を用いて調査を行い、2 尾を採捕した。

（2）2019 年に実施した採泥調査から、底質は粗砂を主体に構成されており、シルト（泥）は確認されなかった。これは 1990 年に行った調査結果と同様であった（表 1）。

（3）水産海洋研究センターによる鵜ノ尾崎沖（水深 38m）と宮城県による亘理沖の仙台湾（水深 42m）の底水温観測で、2018 年 4～6 月は平年底水温を大きく上回っていた（図 1）。

表 1　調査海域における底質性状

緯度（N）	経度（E）	中央粒径（mm）	シルト（泥）含有率（%）
37°　51'	141°　10'	0.82	0.0
37°　50'	141°　13'	0.69	0.0
37°　50'	141°　15'	0.85	0.0
37°　44'	141°　07'	0.95	0.0
37°　44'	141°　10'	1.12	0.0
37°　44'	141°　13'	0.79	0.0

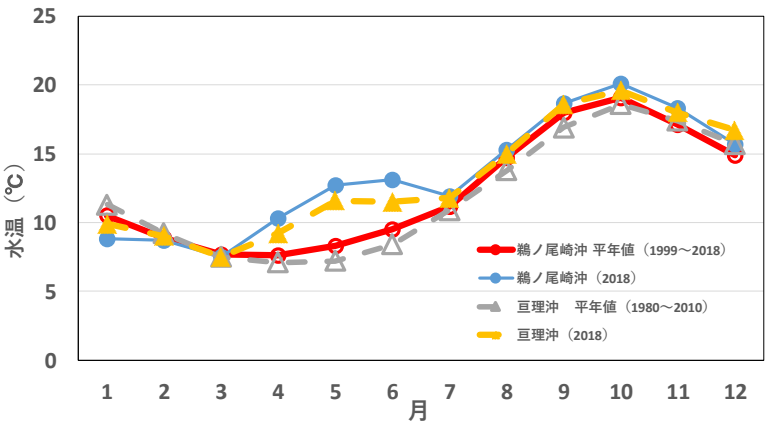

図 1　2018 年における底水温の平年値との比較

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　令和元～令和 2 年度

（2）研究課題名　　海洋基礎生産に関する研究

5　主な参考文献・資料

（1）平成 2,7,8,11,12 年度 福島県水産試験場事業報告書